福島原子力事故関連情報アーカイブ
FNAA Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県内における立木放射性セシウム濃度分布の地域特性について
Alternative_Title	Regional characteristics of the distribution of radioactive cesium in trees in Fukushima Prefecture
Author(s)	山村 充(国土防災技術), 氏家 亨(国土防災技術), 一條 香奈恵(国土防災技術), 三瓶 和法(国土防災技術), 九石 公道(国土防災技術), 野口 忠宏(国土防災技術), 熊井 直也(国土防災技術) Yamamura, Mitsuru(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Ujiie, Toru(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Ichijo, K.(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Sanpei, Kaznunori(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Kuishi, Kimimichi(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Noguchi, Tadahiro(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.); Kumai, Naoya(Japan Conservation Engineers & Co., Ltd.)
Citation	第 7 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.56 The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション：陸域海域の汚染
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157490
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 7 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。

Japan Atomic Energy Agency

福島県内における立木放射性セシウム濃度分布の地域特性について

○山村充，氏家亨，一條香奈恵，三瓶和法，九石公道
野口忠宏，熊井直也　（国土防災技術㈱）

1.　はじめに

福島県では，森林域を対象とした放射性物質のモニタリング調査が平成 23 年以降，継続的に実施されている．本稿では平成 25 年度以降の立木部位別放射性セシウム濃度分析結果から得られた知見について報告する．

2.　調査概要

平成 25～29 年度の 5 ヵ年の間に 50 箇所（図 1）で採取された立木試料を用いた．それぞれの箇所は概ね林齢 30～60 年の単一樹種で構成されており，内訳はスギ林 25 箇所，ヒノキ林 17 箇所，アカマツ林 8 箇所である．

各調査箇所において 1 本/年（平成 25～26 年度調査箇所では 3 本/2 年）の頻度で伐木・部位別試料採取を行った．また，同一箇所にて地上高 1m の空間線量率計測と定面積での落葉層および土壌層採取を実施した．採取した試料は，ゲルマニウム半導体検出器を用いて放射性セシウム濃度を測定した．また，落葉・土壌の放射性セシウム濃度から立木採取箇所の地表面蓄積量（kBq/m^2）を算出した．

3.　結果

樹皮と辺材の放射性セシウム濃度比は，全般的に濃度比 100 未満（辺材濃度は樹皮濃度の 1/100 以上）となった（図 2）．一方，標高 600m 付近より高い調査箇所では，樹皮/辺材濃度比が 100 以上となる立木が田村市中央部や川内村～いわき市方面，伊達市南部で確認された．避難指示区域周辺の森林域において，放射性セシウムが樹帯内へと移行し難い箇所が局所的に存在しているものと考えられる．

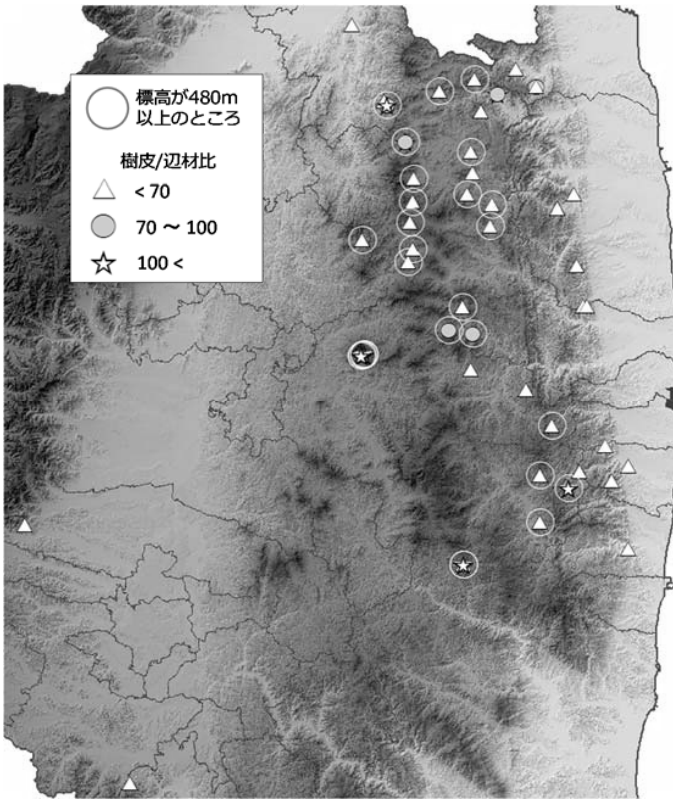

図 1　調査位置図（凡例は樹皮/辺材濃度比）

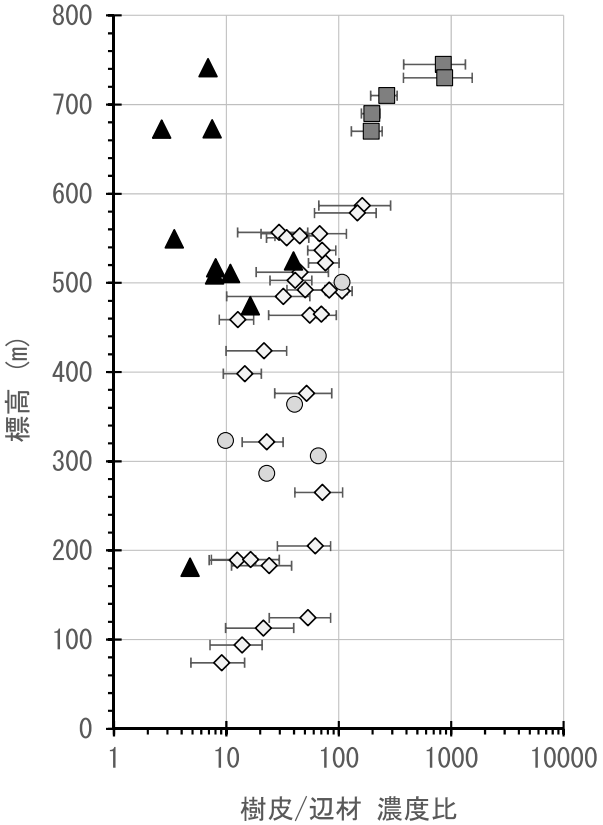

図 2　立木標高と樹皮/辺材濃度比の関係
（凡例は調査年度と調査本数）